# 第5回循環制御研究会を主催して

会長　米沢利英*

第5回循環制御研究会は，1984年4月4日福岡市の都久志会館で行われた．

前年，神戸で第4回の研究会が行われた直後，本研究会の幹事や評議員の賛同もあって主題を「脳循環」とすることにした．

この会に集まる人は麻酔関係の人が多く，一方，臨床的に脳手術が広く行われており，これに関心のある人々が集まるであろうことから，会の内容もこれらの人々に十分な成果を得られるものにしたいと計画した．

脳外科手術に際して，麻酔医として重要なことは，患者の安全を十分はかるとともに，手術遂行に最も適当な患者，とくに脳の状態を確保することである．しかし，これは基礎的分野の医学知識を深く知り，臨床で得た経験を十分に生かすことによって可能となる．形式的な技術の施行に終始することは，麻酔医にとって徒らな疲労を残すだけのこととなり，また，他の医師からは単なる技術を施行しているとの眼で見られる結果となる．

今回の研究会は，上述のことから脳循環をテーマとして，麻酔医の麻酔に対する興味と発展を呼び起こし，更に脳外科領域の麻酔実施上，有益な成果が得られ，また，他科の医師にとって麻酔に対する理解と関心を深め，且つこの方面の最近の知識が得られるように勉めた．午前中は，現在脳循環に関し，最も造詣の深い方々に特別講演を依頼し，麻酔医にとっても，脳に関心のある医師にとっても，程度の高い教育講演的なお話をして頂くようにした．午後は，麻酔医にとって，脳外科の麻酔の実際について役立つことを目的としたシンポジウムを行った．

特別講演の第一番目として，千葉大脳研の萩原教授は，脳の循環の特異性について歴史的なことからその現況を，先生の独自の研究をはさみながら酒脱な話術で話された．

第二番目の東北大脳研内科の小暮教授は，脳の生体における立場から見た機能を細胞レベルの代謝から説明され，この仕事量と血流の関連性を述べられ，その機序についての考察を格調高く話された．

第三番目の山口大学麻酔科の武下教授は，先生の該博な知識から，脳循環と麻酔薬，脳循環と脳脊髄圧，麻酔と脳虚血について麻酔医が麻酔や蘇生術を行ううえに，最も追求すべき重要な点に関する新知見を印象に残るよう情熱をもって話された．

シンポジウムは，「脳外科手術の麻酔」をテーマにした．この講演者は学者は学会や雑誌に脳外科領域の麻酔に関し注目すべき発表をしている人や多くの症例を経験している人々のリストを作り，これを参考にして脳外傷，脳腫瘍，閉鎖性脳血管障害，脳出血急性期，脳動脈瘤手術の麻酔の各領域で活躍しておられる方々に依頼し，また，脳外科の方に加わって頂いた．演者間，および聴衆間に質疑応答があり，それぞれの分野の麻酔のコツがよく理解される成果を得た．司会の北里大学の田中先生の労を謝す次第である．

会場は，日本麻酔学会長の九州大学吉武教授の世話になった．会の運営には私の教室員のほかに徳島大学の麻酔学教室の方々，その他の方々の手伝いを得て円滑に行われたが，これらの方々に感謝する．立派で広すぎると思われた会場の席が満され，盛会裡に終了し得た．

以上の会の講演内容を本として会員に配布することは有意義であり，これはまた，研究会の必須

*千葉大学医学部麻酔学教室

Presented by Medical*Online

事項であり，今後のこの研究会の発展に欠かすことの出来ぬものであると思っていたが，この会の準機関誌である「循環制御」誌にまとめて発行され，会員には配布することに賛同が得られ，実行出来るようになったことは，慶びとするところである．

＊　＊　＊　＊　＊
＊　＊　＊

Presented by Medical*Online